

実務経験のある教員等による授業科目

シラバス

ミュージシャン学科

ミュージッククリエイター専攻

授業科目		授業時数
アレンジメント		124
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ミュージッククリエイター専攻
担当講師(プロフィール)		
戸田 篤志 十数年に渡り職業クリエイターとして活動する経験から、様々な用途に合わせた編曲知識を教授する		
前 期		
到達目標		
基本的なアレンジメントの理解 / 本格的な和声付けが出来る 基本的なリズム構築が出来る / 打込みでの楽曲制作 独創性と発展性を身に付ける		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	アレンジメントの基礎概念(アレンジの重要性)	
2	ベーシックなコード付け	
3	循環コードによるコード付け	
4	イントロ～アウトロまで	
5	基本ビートのはめ込み	
6	和声とリズムのサポート	
7	テイストの違い	
8	色んなアレンジサンプル	
9	響きのイメージ	
10	リズムパターンのチョイス	
11	バックギングについて	
12	装飾的な音やフレーズ(ストリングス等)	
13	MIX DOWN	
14	前期テスト課題の出題	
15	前期テスト	
16	前期テストの総評／前期授業のまとめ	

授業の方法	
講義・(演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
編曲の基礎知識や技法を学習、既成曲の分析も含めメロディー・ハーモニー・リズムの構築方法を研究していく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:ヘッドフォン・USBメモリー	
後 期	
到達目標	
ラインアレンジの理解 テーマの提案が出来る メロディーにマッチしたリズム構築が出来る	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	グッドアレンジ
2	音楽理論的な考え方①
3	音楽理論的な考え方②
4	ROCK系の基礎アレンジ①
5	ROCK系の基礎アレンジ②
6	Pops系の基礎アレンジ①
7	Pops系の基礎アレンジ②
8	Ballad系の基礎アレンジ①
9	Ballad系の基礎アレンジ②
10	アレンジメントの基本概念
11	オリジナル曲の制作①
12	オリジナル曲の制作②
13	オリジナル曲の制作③
14	後期テスト
15	後期テストの総評／年間授業のまとめ

授業科目		授業時数
音楽理論		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ミュージッククリエイター専攻
担当講師(プロフィール)		
綿貫 正顕 メジャーな作曲家・演奏家としての経験から、知識だけになりがちな理論を、実践的な楽曲創作に活用できる指導をする。		

前 期
到達目標
・楽譜の読み書きが正確にできる・調号そして長調短調の関係を理解している ・メジャースケール・マイナースケールを理解している・音程及び3和音そして4和音の理解 ・理論の必要性を感じ追求する姿勢がある

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	楽典／記譜法①	音符の長さについて学びます。曲のテンポによっても、その絶対的長さが変わったりするものなので、基本をしっかり身に付けます。
2	楽典／記譜法②	音符、休符についての書き方や表記の際に注意すべきことを学びます。1小節に表す際のルールや判りやすい表記も必要な部分です。
3	楽典／記譜法③	音符、休符を例題に沿って記述していきます。譜面に表現される反復記号、省略記号等の理解をしていきます。コードや音符が現状で書けなくても、リズムがある以上、ある一定の速度で小節が移動していきます（ハコ譜の作成）
4	楽典／記譜法④	音部記号（ト音記号・ヘ音記号）と拍子記号・調整記号について学びます。各音名の読み方
5	長音階 メジャースケールについて	Key=Cのメジャースケールから考え、その構成や聞こえ方について学びます。その音の隔たりを持って、別の高さの音から並ぶと他のメジャースケールになります。
6	音程について	ある音と音の隔たりを音程(Interval)といい、いろんな隔たりが存在します。ユニゾンからオクターブまでに存在するものを理解します。
7	音程・音階について	メジャースケールの6番目からスタートすれば、マイナースケール。同じ根音を持つメジャー・マイナー(同主調)とも比べます。その比較に音程を理解していると便利です。
8	トライアード	Chord structureとして結びつきが強いトライアード(M, m,)について学びます。その他、ベーシックとなる3声コードには、aug、dimが存在します。
9	4声コード	トライアード及び、それを基礎として成り立つ4声コードの構成も勉強していきます。
10	コード表記と転回形	コードネームの表記ルールとそのカラーリングを勉強していきます。また、実際にそれらのコードが使用される際の転回形というものも理解していきます。
11	テンションノート	7th以上に位置するテンションノートの響きや表記について学びます。
12	ダイアトニックコード	ダイアトニックコードについて理解していきます。特殊なものを除いて楽曲を構成するコードの殆どが、ダイアトニックコードを基準に考えられています。
13	コードファンクション	ダイアトニックコードのファンクション(機能)について学びます。それぞれが持つ特徴を理解していきます。
14	前期の復習	記譜法、基礎的な音楽理論、コードネームの復習
15	前期試験	記譜法、基礎的な音楽理論、コードネームより出題
16	前期試験返却	試験返却、出題内容の解説

授業の方法
講義 演習 ・ 実験 ・ 実技 ・ 実習
授業概要
基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞
使用教材:モダンミュージックセオリー

後 期
到達目標
・スケール(メジャー/マイナー)を理解できる・4和音とテンションを理解し楽曲に反映できる ・コード進行のアナライズ(分析)ができる・コード進行を理解し楽曲に反映できる

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	コードプログレッション	Circle of 5th 4度(上行)進行／5度(下降)進行 マイナーダイアトニックコードについて学習します。
2	マイナーケーデンスについて	マイナー楽曲に、より強い終始感を求めるかたちとして、ハモニックマイナースケール及びそのダイアトニックコードの存在がある。
3	マイナー楽曲のコード進行	マイナー曲のコード進行のアナライズを行う。そこで用いられるコード進行は、メジャーキーでも流用されるケースが多い。
4	Substitute Chord①	I、IV、Vのそれぞれの機能に対する代理コードが存在する。Major、Minorにそれぞれ存在する。
5	Substitute Chord② Modal Interchangeについて	もう一段、推し進めたかたちで、Major、Minorそれぞれ存在する色々なコードが、同軸の壁を越えて使われる例を示す。
6	Chord progression① Blues	ブルースのコード進行について学び、TonicやSub-Dominantに代理コードが使用される例を学ぶ。
7	Chord progression② Diminish Chord	ディミニッシュコードの構成音を学ぶ。代表的に使用される、そのコード進行を参考に、その音イメージを理解していく。バッキング、7th(b 9)、TonicDimi等
8	Chord progression③ Reharmonization	よりスムーズなハーモニーの展開が得られるようにリハーモニゼーションという考え方を学びます。
9	Chord progression④	リンクリシエ(R-M7-m7-6、5-#5-6等)、ペダルポイント、ソプラノポイント等のコード進行上のバリエーションを学びます。また、コードトーンをベースにしている転回形分数コードについて理解します。
10	Chord progression⑤	ベース音にテンションをまとめ込んだ形態(トライアードやコード)で表現される分数コードについて紹介します。
11	Scale① Penta Tonic Scale	ペントニックスケールの意味合いを理解して、マイナーペンタにブルーノートを入れた説明を行います。
12	Scale② Church mode	終始感を持たない雰囲気チャーチモードについての説明。それを即興演奏に取り入れたかたちがAvailable Note Scaleという言い方で伝えられる。
13	後期の復習	コード進行と基礎的なスケール
14	後期試験	記譜法、理論の基礎、コードネームおよびコード進行と基礎的なスケールより出題
15	後期試験返却 及び補足説明	試験返却、出題内容の解説